

令和6年第1回 防災講習会HUG（全2回）

日 時：6月9日（日曜日）9:00～11:30

場 所：大岡地区センター2階会議室

主催：大岡コミ消防防災部・女性部 参加人数：70人

講師：沼津危機管理課係長：田中鉄郎氏、防災地震係：主査山口祐吉氏。

● **連合会長挨拶** 地震への備えに対する基本的考えが確立していない現状の中で地震などの被害を最小限に備えるには「自助」「共助」「公助」がありますが、「公助」のみの災害対策には限界があります。大岡地区には三校の避難所がありますが、中心的な役割は地区センターになると思います。また、役員が1年～2年で交代になるため課題が残ります。また、東南海・南海地震では、地震発生後に巨大な津波が短時間でおそってきます。地震直後の災害から身を守るためには、自ら守もちろん近隣の人々が助け合うことが極めて重要です。一方、消防機関等が救助、消火活動を行うことは、地震直後対応は無力です。このようなことから、みなさん自身が「自分の身は自分で守る」ことが大切です。



連合会長挨拶



講師・沼津市危機管理課

● **副会長・市川康隆氏から避難所立ち上げの説明** 災害時に3校の体育館が利用可能で有る事の話がありました。避難所を開設にあたり4月13日に「沼津市環境整備事業協同組合」による「過去の災害から学ぶ ～とても大事なお話～」の研修会を思い出し、避難所立ち上げの段階からの共通認識を持つことが重要だと考えます。体育館・利用可能な学校のトイレは、携帯トイレを取り付ければ、給排水の状況に関わらず利用可能。そのためにも避難所を立ち上げる時は、名簿の作成と同時にトイレ入口に担当者を置き携帯トイレを渡し使用方法を説明。その後使用者が指定の蓋付き容器に入れる。一般的に言われている携帯トイレの必要数は一日5回×最低7日分。阪神淡路大震災以降、東日本大震災・熊本地震から本年の能登半島地震までトイレの使用状況には変化がなく、臭い・汚いまです。



HUG風景

災害時のトイレ問題点 ①不衛生なトイレによる感染症。②水分摂取を控えることでの関連死。③心理的負担による不和等があげられます。



簡易トイレの使用の説明

※ **HUGの取り組みとは**、災害時の行動をイメージし、生き残り、支え合うための行動を避難所運営ゲーム（HUG）で実践的に学ぶことにより、**自分・家族・街を守るため、災害時に、若い世代、高齢者の方など、支え合う行動をともに考えることをめざしています。**

【ゲームの説定条件】

1、**地震の発生状況** 6月9日日曜日、午前5時に大地震発生（マグニチュード9.0）、震源は駿河湾沖 沼津市 震度7。

2、**日時・場所・天候** 小雨で蒸し暑い日曜日ここは、避難所の学校の体育館は耐震化済み、大きな被害なし（応急危険度判定結果 使用可能）。今の時間は、午前から10時から午後5時の間

きている)。気温 25 度、湿度 80%。強い風が吹いている。

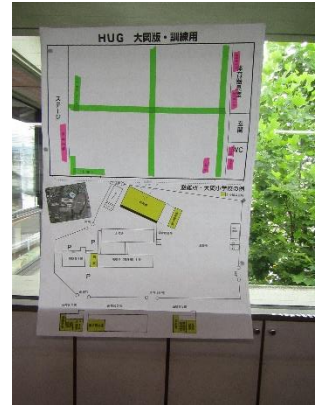
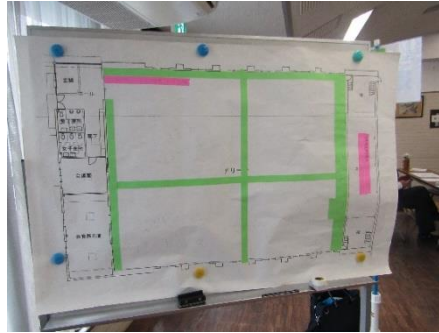
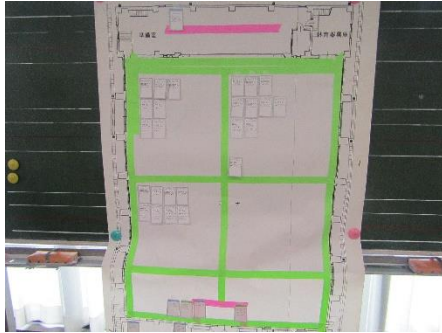
3、**ライフライン** 電気、ガス、水道、全て遮断。電話は時々通じる。メールは、遅れて届く

4、**避難所として使える場所** 体育館・校庭・教室 1, 2, 3.

5、**学校の設備、備蓄してあるもの** 非常用発電機、仮設トイレ、備蓄食料はなし救護所は、設営されない。

6、**避難所の状況** 校庭に 100 人程度の非難者がいるが、続々と非難してきている。老人、乳幼児、妊婦の姿が見える。車で避難してきている人もいる。雨足が強くなってきているので、順次体育館に入れる必要がある。

7、**プレイヤーの立場** **大岡の自治会、自主防災会の役員で、避難者を体育館や教室に振り分けて、避難所を適切に運営していかなければならない立場にある。**



※ 班ごとに役割の確認説明

本日の班編成は、避難所開設初期をイメージして編成しています。また、3校の避難所では異なる班の名称が用いられておりますが、今回の講習会では、テーブルの名称にて行います。また、時間の経過と共にボランティアの受け入れ、管理等を受持つボランティア班も必要になって来ると想定されます。

各テーブルに「班ごとの役割例」を置いてありますので、班ごとにどんな役割を担わなければならないか検討して下さい。トイレの管理はどこで担当するか等検討をお願いします。



HUG風景

休憩後に行いますHUGの時にも避難者に対し、班（複数の班が対応するケースもあります）の役割を考えて下さい。との旨の説明がありHUGが行われました。

【避難所運営訓練】

HUG訓練は、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

災害時の緊急支援だけでなく、将来の大規模災害への備えにも取り組み、東日本大震災の最大の教訓は、災害対策は起きてからでは遅い。

危機管理課の話では積極的に取り組んでいる地域は、大岡・門池・第一・今沢との事。最後に質疑応答でいろいろな意見、質問があり次回に回答するとの事で、第1回防災講習会HUG終了しました。